

さて、今年は……。

加藤文子

一月半ば頃から、徐々に日が長くなる。外はとても寒いのだけれど、心の中では春を想つている。今年はどんな出会いが待つているのだろう、何が起こり展開していくだろう。

春たけなわ湧き出るミドリに心はずませる。

夏は日射しを避けながら草取りしたり、体が続くように工夫して外仕事をする。それでも暑い暑いとボヤいてみたり、休憩にはアイスキャンディを頬張る。

猛暑の下での盆栽の水やり、ひと鉢ひと鉢目を配つて見落とさないよう心を凝らす。これだけは怠つてはいけないと……。

汗をぬぐいながら木陰に身を置いた瞬間、涼しい風が通り過ぎることがある。この体感は格別。トンボが飛び交い、チロチロ虫の音が耳に届くようになって、暗くなるのもはやくなつて、秋到来である。数日を境に雨に冷たさを感じる。ぬか漬けのつかりも遅くなつた。



ゲンノショウコの赤紫の花が茎を伸ばしながらこぼれ咲こうとしている。いつの間にか増えたホトトギスが茎を弛ませて、棚下の地面すれすれのところでうす紫や白色の花を咲かせている。リンドウも蕾を膨らませて張り切っている。

コムラサキの紫の実、ウメモドキや西洋カマツカの赤い実等、かつ色を帶びた葉と共に、庭は秋色に染まりはじめる。

来春開花する木ブシの房状の花芽が目に留まる。次の春も来るよね、そんな思いが頭を過る。

今年は隣の林のクルミが豊作のようで、リスが頻繁におとずれる。庭のあちらこちらに食べ残しが殻と一緒にころがっている。忙しく動きまわる姿が可愛らしい。こんな光景を目にするのは、はじめてだ。

暑さに飲み込まれそうになつた夏から解放されて安心したのか、秋のはじめ夫も私もめずらしく調子をくずす。大したことではないと思っていたところが、アレヨアレヨという間に悪化してしまい、回復に時間が要つた。

とはいえ展覧会の搬入搬出の日程をぬうように発症してくれたので、支障を来さずに済んだことは幸いだつた。

些細な事柄がどんな方向へ向かうのかわからない。物事は未知数のことを孕んでいる。数日不調がつづいただけで、困惑する自分もいた。

普通に動けて、ごはんがおいしくいただけて、何でもない日常が送れることは、なんて幸せなんだろう。

そういえばネットクーラーの存在を知つて、みんなで着用したのもこの夏。冷蔵庫から冷えたのをとつかえひつかえ交換しながら首に巻いていた。使つてみたら良かつたので知り合いに教えたら、みんな知つていた。

知らないことがたくさんある。



思わず見とれてしまう